

問題1 医療関係職種に関する法律で誤っているものはどれか。

1. 救急救命士法
2. 薬事法
3. 保健師助産師看護師法
4. 診療放射線技師法
5. 医師法

問題2 救急医療において誤っているものはどれか。

1. 健康状態が急変し、なんらかの医学的介入なくしては病勢の悪化を阻止できる状態にある者を救急患者という。
2. 救急医療およびその体制は医療資源、経済や社会構造によって大きく左右される。
3. 救命率の向上や良好な転帰を求める救急の方程式を

$$\text{救命率の向上・良好な転帰} = \frac{\text{診療の質} \times \text{医療資源の量}}{\text{時間}} \quad \text{として、表現できる。}$$

4. 救急医療の質において放射線領域でいえば、CT や血管造影がただちに行える設備と人的確保はいうに及ばず、その技術力も救急の質を左右する。
5. 救急診療のために救急傷病の研究だけでなく、体制整備の構成も含めた研究をも合わせて、学問としての救急医学が存在する。

問題3 救急医療と戦争の歴史にて正しいものはどれか。

1. ベトナム戦争＝外傷医学、リハビリや予防医学の確立
2. 朝鮮戦争＝血管損傷修復の発達、急性腎不全と透析療法
3. 第一次世界大戦＝供血体制（米国）、抗菌薬
4. 南北戦争＝創傷処置としてデブリードマンの登場
5. クリミア戦争＝ナイチンゲールによる戦傷者の搬送と選別による早期治療

問題4 わが国(日本)の救急医療体制について正しいものはどれか。

1. わが国において救急医療制度が誕生するきっかけは第二次世界大戦における、戦傷者の搬送システムと医療機関不足によるものである。
2. 医療機関を確保すべく、昭和39年には「救急病院等を定める省令」が厚生省法として発足され、医療機関からの申告により厚生大臣が承認し施設名を公にするため、救急告示制度とよばれてきた。
3. 救急救命士は平成15年4月から「包括的指示による除細動」、平成16年7月からは「気管チューブを用いた気道確保」が認められた。
4. 救急救命士は平成18年4月からは心肺停止前の特定行為「低血糖に対するブドウ糖液の投与やショックに対する輸液」が認められた。
5. 平成21年には改正救急法が施行され、「傷病者の搬送及び受け入れの実施基準」を設けられた。

問題5 Glasgow Coma Scale でスコアが高い順の組み合わせについて正しいものはどれか。

1. E:開眼(自発的に→痛み刺激により→呼びかけにより→開眼しない)
2. E:開眼(開眼しない→痛み刺激により→呼びかけにより→自発的に)
3. E:開眼(自発的に→呼びかけにより→痛み刺激により→開眼しない)
4. V:言語音声反応(発声がみられない→無意味な発声→不適切な発語→混乱した会話→見当識あり)
5. V:言語音声反応(発声がみられない→無意味な発声→混乱した会話→不適切な発語→見当識あり)

問題6 トリアージ(triage)について正しいものはどれか。

1. トリアージとは限られた医療資源のなかで緊急度、重症度の高い少数の傷病者の治療を行うための作業をいう。
2. 優先順位のもっとも高いものを区分Iとし、医師のみに認識できるよう赤色をつけて識別できるようにする。
3. 最初に行われる一次トリアージは医師のみにて行われる。
4. トリアージは通常、SMART と呼ばれる方法で行われる事が多く、これは外傷診療の primary survey を応用した簡易版である。
5. トリアージの結果を第三者に伝え、病院前救護の情報を記録するツールとしてトリアージタグが使用され、傷病者につけられる。

問題 7 救急患者に対する基本的対応で誤っているものはどれか.

1. 体温は正常値 36℃, 低体温 35℃以下, 過高熱 41℃以上とされている.
2. 成人の呼吸数は 25~35 回/min と定義されている.
3. 意識レベルの評価は Japan Coma Scale や Glasgow Coma Scale で評価する.
4. バイタルサインとは呼吸数, 脈拍, 血圧, 体温を示す.
5. 生理学的徴候のとらえ方を ABCDE アプローチで行う.

問題 8 災害時の救護所等における X 線撮影の適応で正しいものはどれか.

1. 災害なので場所は限定なしで傷病者に対して X 線撮影は適応できる.
2. 診療放射線技師の判断で依頼部位以外を X 線撮影することが認められている.
3. 傷病者は X 線管容器及び撮影患者から 2 メートル以上離れた場所にて待機する.
4. 災害医療を行うために X 線撮影が必要であると医師又は歯科医師が認めた者.
5. 傷病者は X 線管容器及び撮影患者からの距離に対し特に制限はない.

問題 9 重症患者における循環管理にて誤っているものをどれか.

1. 輸液・輸液療法: 細胞外液や循環血液量の不足を補う.
2. 心臓エコー: 心臓機能と循環血液量の評価などを行う.
3. 中心静脈圧測定: 循環血液量の過不足および心不全状態を総合的に評価する.
4. 肺動脈カテーテルによる循環動態測定: 心機能, 血管梗塞, 酸素供給バランスを測定する.
5. 心血管作動薬の投与: 心拍出量, 血管の緊張性を調節し, 不整脈を制御する.

問題 10 多発外傷診療で誤っているものはどれか.

1. 胸部と骨盤の X 線撮影実施.
2. 全身 CT の実施.
3. 頭部, 頸椎単純撮影の実施.
4. 血管造影, IVR
5. 超音波による腹部エコーの実施.

問題 11 脳卒中に関する記述について正しいものはどれか。

1. くも膜下出血の病変描出に対する CT 画像の感度は 100%である。
2. 亜急性期におけるくも膜下出血の描出には MRI 検査が有用である。
3. 超急性期脳内出血における CT 画像では境界明瞭な 150HU 以上の高吸収域として検出される。
4. 脳梗塞における early CT sign としてレンズ核辺縁の不明瞭化が発症直後より認められる。
5. 脳梗塞急性期における拡散強調画像の検出感度は高く発症 30 分以内で高信号が描出される。

問題 12 呼吸器疾患の記述について誤っているのはどれか。

1. 呼吸器疾患を疑う場合は SpO₂ 値をモニタリングするのが望ましい。
2. 胸水を認める場合は座位と臥位では胸部単純 X 線写真の肺野内の濃度は変わる。
3. 大量喀血とは 1 度に 100ml 以上または、24 時間以内に 600ml 以上の喀血をする場合を言う。
4. 慢性閉塞性肺疾患とは肺気腫と慢性気管支炎およびこれらが合併した総称である。
5. 胸部 X 線二次結核症では約 80%に空洞形成がみられる。

問題 13 急性冠症候群 (ACS) の記述について正しいものはどれか。

1. 非 ST 上昇型心筋梗塞 (NSTEMI) は経皮的冠動脈形成術 (PCI) などにより早期の再灌流が重要となる。
2. ACS 初期評価における胸部単純 X 線撮影にて上縦隔陰影の拡大、二重陰影が認められる場合には他疾患との鑑別のため他検査が必要となる。
3. PCI を早期に開始するため、冠動脈造影 (CAG) では責任冠動脈のみ造影する。
4. POBA (plain old balloon angioplasty) による治療が主流となっている。
5. STEMI での再灌流療法の目標は発症後 4.5 時間以内である。

問題 14 消化管閉塞について、誤っているものはどれか。

1. 腸間膜の血流障害を伴う腸閉塞は、機能性閉塞である。
2. 単純腸閉塞は、腸管の減圧が選択される。
3. 小腸閉塞では腹部立位単純 X 線画像でニボーの形成がみられる。
4. 絞扼性腸閉塞を疑う場合は、CT 検査の 3 相撮影が重要である。
5. 絞扼性腸閉塞の CT 画像所見では、腸間膜血管の異常走行がみられる場合がある。

問題 15 泌尿器科系疾患の撮影に関する記述について誤っているものはどれか。

1. 急性腹症で泌尿器科系疾患が疑われる場合,超音波検査が第一選択となる。
2. 腎動脈損傷の血管造影検査では塞栓物質として,多孔性ゼラチン粒やマイクロコイルが使用される。
3. 腎動静脈奇形や腎癌の血管造影検査では塞栓物質として,ゼラチンスポンジが使用される。
4. 尿路結石症の初期診断の第一選択は単純CT検査であり,結石の大きさ,部位,閉塞の有無を評価する。
5. 気腫性腎盂腎炎ではCT検査が重症度判定や治療法の選択に有効である。

問題 16 産婦人科系疾について誤っているものはどれか。

1. 子宮外妊娠破裂は,出血性ショックになり得る。
2. 卵巣腫瘍が茎捻転を起こした場合,卵巣のうっ血の原因となる。
3. 小児は付属器が未発達のため,茎捻転になりにくい。
4. 急性腹症が疑われた場合,妊娠反応の確認は重要である。
5. 卵巣出血は卵胞出血より黄体出血の方が多い。

問題 17 脳出血部位に見られる身体所見について,正しいものはどれか。

1. 小脳出血の場合,眼球は健側へ変位する。
2. 視床出血の場合,眼球は患側へ変位する。
3. 橋出血の場合,鼻側へ変位する。
4. 視床出血の場合,瞳孔の縮瞳はみられない。
5. 被殻出血の場合,瞳孔の縮瞳がみられる。

問題 18 心不全の治療指針である Forrester 分類について,正しいものはどれか。

1. I 群の場合,利尿薬の投与が必要である。
2. II 群の場合,輸液や強心剤の投与が必要である。
3. 循環血液量が過剰な状態は,III群に分類される。
4. 心係数 CI の正常値は 3.5 ± 0.7 (l/min/m²) である。
5. Forrester 分類は心係数 CI と肺動脈血流量が用いられる。

問題 19 絞扼性腸閉塞での CT において特異性の高い所見に関する記述について誤っているものはどれか。

1. 造影 CT 検査で腸管が造影効果を示さない。
2. 小腸ループの口側と肛門側の同一箇所での口径変化 (caliber change) がみられる。
3. 捻転による腸管,腸間膜の渦巻き状の走行 (whirl sign) がみられる。
4. 単純 CT 検査で低吸収の腸管壁を示す。
5. 腸管壁内ガスおよび門脈内ガスを認める。

問題 20 気胸について誤っているものはどれか。

1. 基礎疾患に伴う気胸は,自然気胸に含まれない。
2. 胸部側臥位単純 X 線撮影は患側を下に撮影する。
3. 虚脱した肺が小さいほど,虚脱率は大きくなる。
4. 虚脱率が 20%以下であれば,軽症と判断される。
5. 緊張性気胸において虚脱率が 15%以上の場合,脱気の処置が必要である。

問題 21 Primary survey と蘇生の際に行われる FAST について正しいものはどれか。

1. 超音波検査で実質臓器損傷を重点的に観察する。
2. 超音波検査では肋間からの観察はしない。
3. ポータブル撮影での胸部と骨盤の背臥位正面単純 X 線撮影を含む。
4. FAST で陰性であれば再度 FAST は行われない。
5. FAST は心嚢液,出血などの検索を焦点に絞った検査である。

問題 22 頭部外傷に関する記述について誤っているものはどれか。

1. 著明な占拠性病変が存在しないにもかかわらず,重度な意識障害が 6 時間以上続く場合は重度びまん性脳損傷と診断される。
2. 遅発性外傷性脳内血腫 (delay traumatic intracranial hematoma :DTICH) とは,受傷後に時間が経過してから血種形成することである。
3. 脳内の微小出血を鋭敏に検出するには MRI 検査の T2*強調画像が有用である。
4. 最近では頭部単純 CT において再構成画像 (VR, MIP など) を構築することで骨折の診断が容易に行える。
5. JATECT™ では呼吸・循環が維持されていなくても secondary survey の最初で頭部 CT 検査を行うことを推奨している。

問題 23 胸部・心外傷患者の胸部単純 X 線撮影の記述について正しいものはどれか。

1. 血胸は左 1～4 弓の直線化を認める。
2. 心タンポナーデは患側肺野にびまん性の透過性低下を認める。
3. 潜在性気胸 (occult pneumothorax) は背臥位胸部 X 線撮影で見落とされることが多い。
4. 食道損傷は肺胞性出血による解剖学的肺区域に一致しない淡い雲状陰影が、肋骨・脊椎に隣接した部位に認められる。
5. 肺挫傷は縦隔気腫、胸水貯留、縦隔陰影の偏位を認める。

問題 24 腹部・骨盤外傷の記述について正しいものはどれか。

1. 循環動態の安定化が得られていない状態でも造影 CT 検査を優先的に行う。
2. 膵管断裂は CT 検査でほぼ 100%の確定診断が可能である。
3. 尿管損傷では逆行性腎盂造影を行い、不完全断裂型では尿管にバルーンを留置する。
4. 腹膜外膀胱破裂では膀胱周囲の組織内に造影剤が漏れるため火焰状となる。
5. 安定型骨盤骨折は C-clamp による整復固定術が優先的に行われる。

問題 25 四肢外傷患者対応の記述について誤っているものはどれか。

1. バックボードやシーネ固定具のまま撮影するという特殊な環境となる場合がある。
2. ポジショニング時の肢位の調整は医師と確認しながら行うことが原則である。
3. 外傷に伴う臓器損傷を合併している場合は、主要な動脈からの活動性出血に対する止血は優先順位の低い治療である。
4. Early total care (ETC) は、受傷後の数～24 時間以内に骨折に対する根治的内固定術を行うものである。
5. Damage control orthopaedics (DCO) は、急性期に創外固定などの一時的な固定法で対応し、患者の状態が改善したタイミングで根本的治療に進むものである。

問題 26 妊婦外傷に関する記述について正しいものはどれか。

1. 外傷性の子宮破裂は、母体を救命するのに非常に困難をきたす。
2. 重篤な腹部鈍的外傷の約 7 割が切迫流産の徴候を呈す。
3. 胎児損傷において頭部外傷は妊娠前期に多い。
4. 母体が心肺停止に陥った場合、非妊婦と同様に心肺蘇生を施行する。
5. 母体血が胎児血へ移行する胎児母体間出血は外傷で発症する確率が高い。

問題 27 FACT (focused assessment with CT for trauma) で観察すべき項目の記述について誤っているものはどれか。

1. 頭蓋内 — 緊急減圧開頭が必要な多発性梗塞
2. 大動脈峡部 — 大動脈損傷,縦隔血腫
3. 下肺野から肺底部 — 広範な肺挫傷,血気胸,心嚢血腫
4. 直腸膀胱窩 — 腹腔内出血
5. 骨盤・腰椎周囲 — 骨盤骨折,椎体周囲の血腫

問題 28 次の組み合わせで正しいものはどれか。

1. Fat pad sign — 脱臼を疑う
2. Fat fluid level — 股関節内骨折に特異的
3. クラッシュ症候群 — 横紋筋融解
4. コンパートメント症候群 — snow storm
5. 脂肪塞栓症 — 高脂血症

問題 29 胸部大動脈損傷時の胸部 X 線画像で特徴的な所見で誤っているものはどれか。

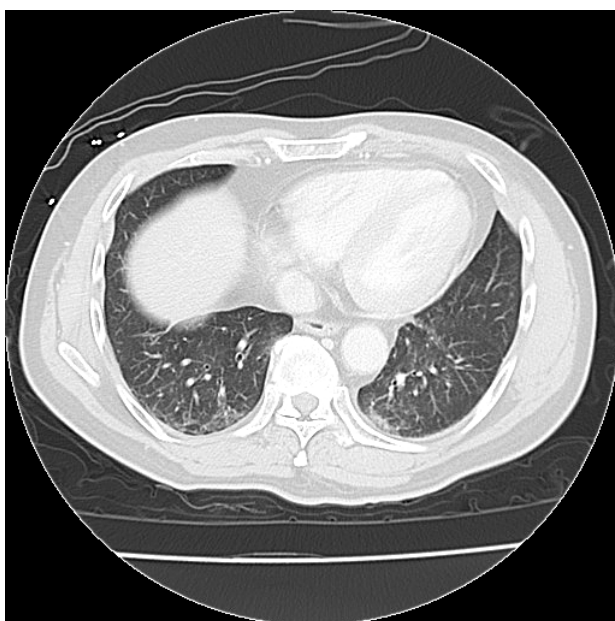
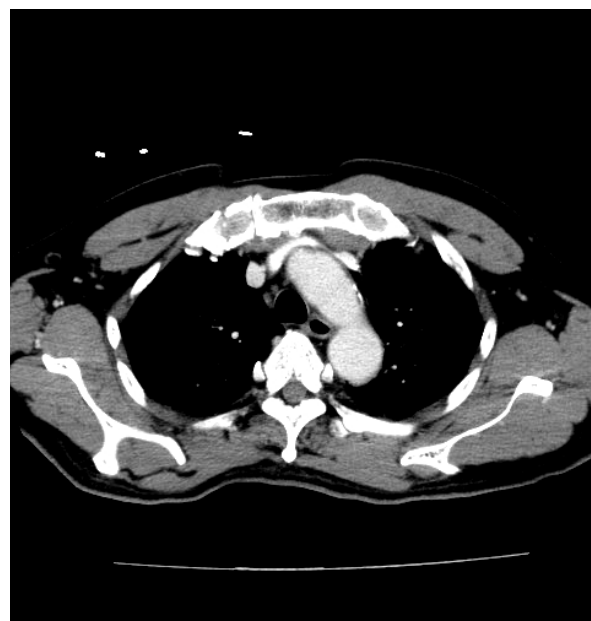
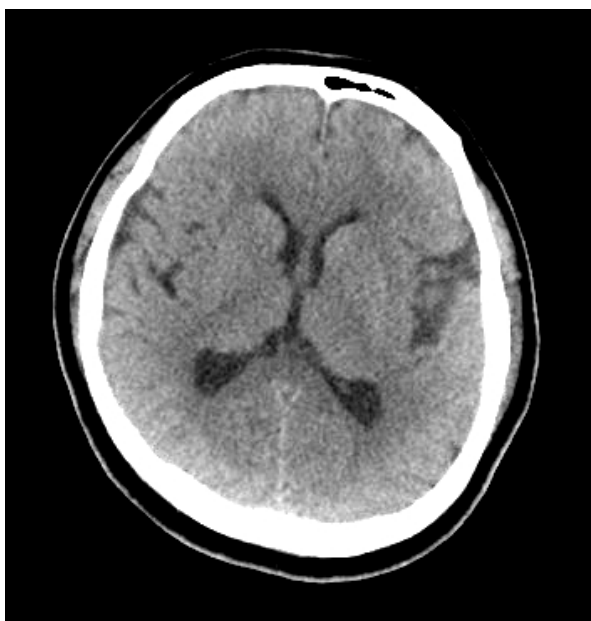
1. 上縦隔の拡大.
2. 主気管支の右方偏位.
3. 左気管支の下方偏位.
4. Aortic knob の明瞭化.
5. Apical cap.

問題 30 妊婦外傷に対するリスクマネジメントの記述について正しいものはどれか。

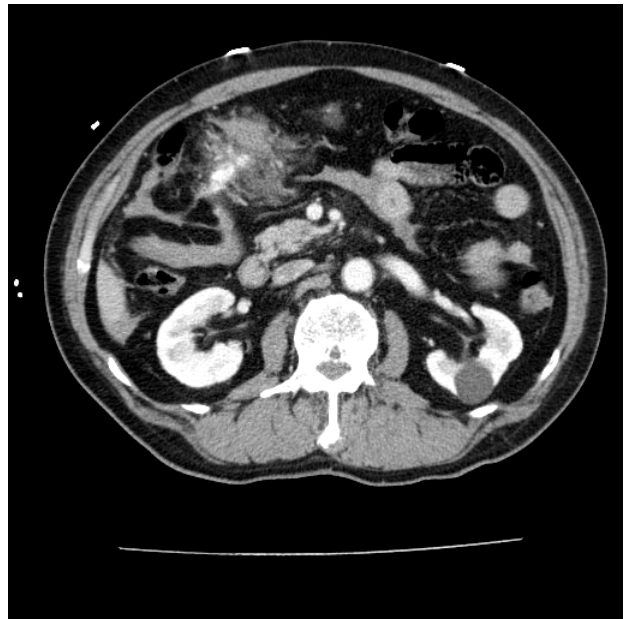
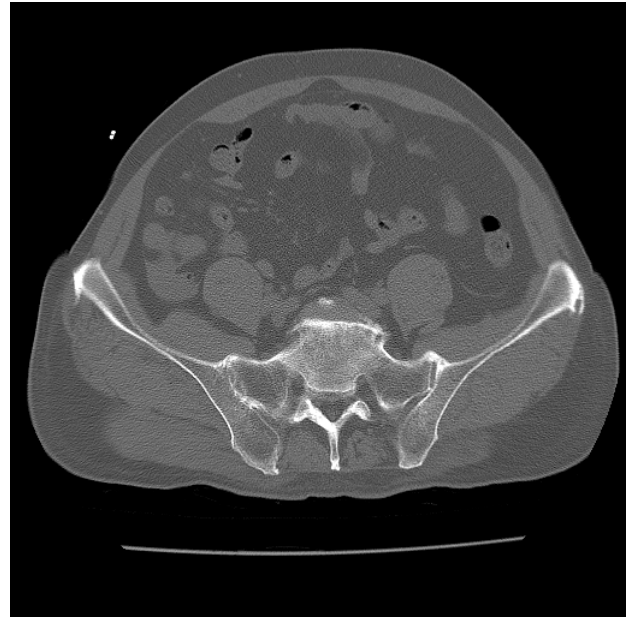
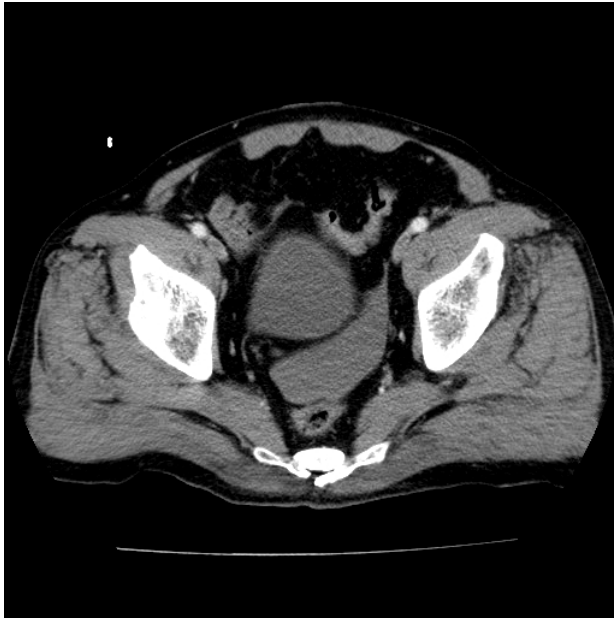
1. 救急現場では,患者の救命と医療被ばくの間にはトレードオフが存在しない.
2. 国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007 年勧告では,胎芽・胎児期の放射線による胚の致死・形態異常などのしきい線量は 300mGy とされている.
3. 国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007 年勧告では,胎芽・胎児期の放射線による重度の精神遅滞のしきい線量は 100mGy とされている.
4. 妊婦に対する被ばく防護上の観点から,スキャン範囲や照射線量の過度な制限は,重篤な疾患の見落としにつながる.
5. 胎盤は水溶性造影剤に対するバリア能を有するため,母体に投与された造影剤は胎児の血液循環へ移行することはない.

問題 31 60代男性,高速道路を走行中,玉突き事故にて救急搬送された症例の外傷全身 CT 画像である。次の記述について誤っているものはどれか。

1. 読影の第一段階：FACT は陽性である。
2. 腸間膜損傷が疑われる。
3. 肝損傷が疑われる。
4. ダグラス窩（膀胱直腸窩）に液体貯留をみる。
5. シートベルトによる損傷が考えられる。



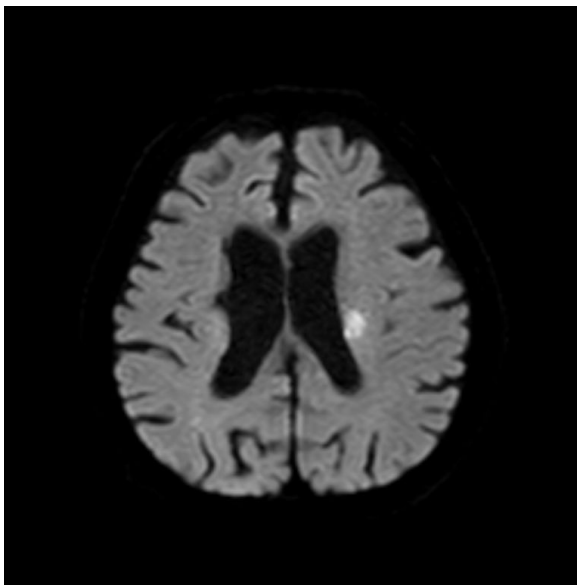
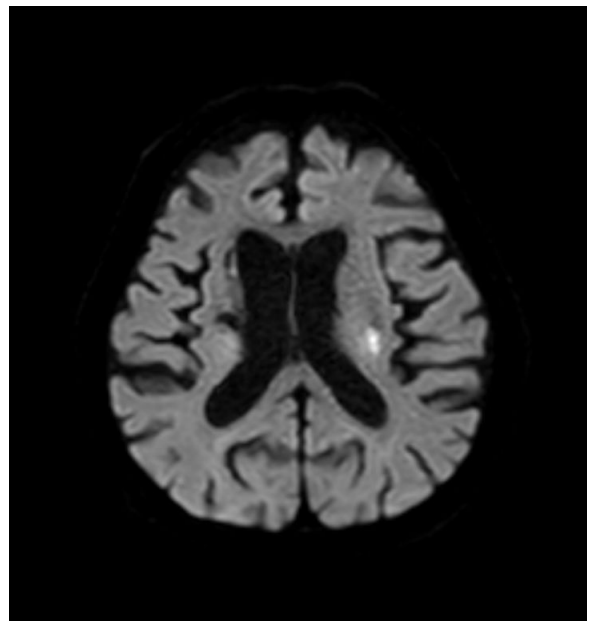
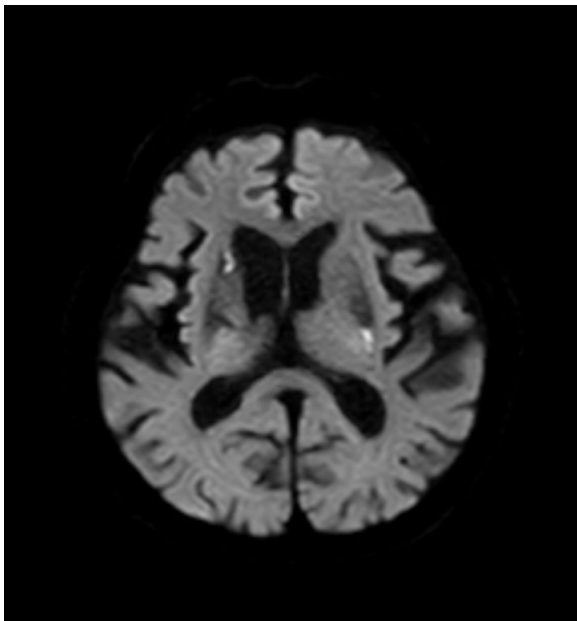
頭部	大動脈峡部
下肺野	



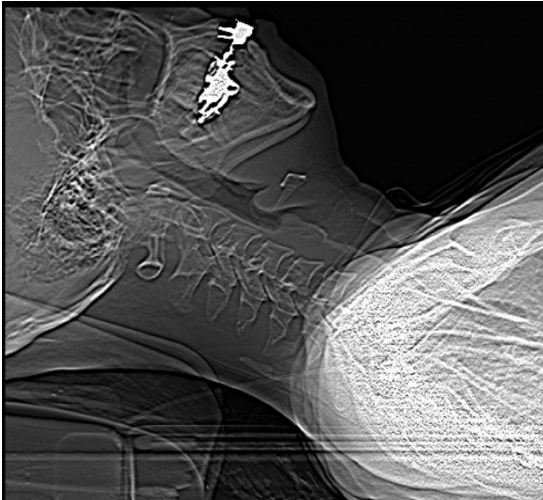
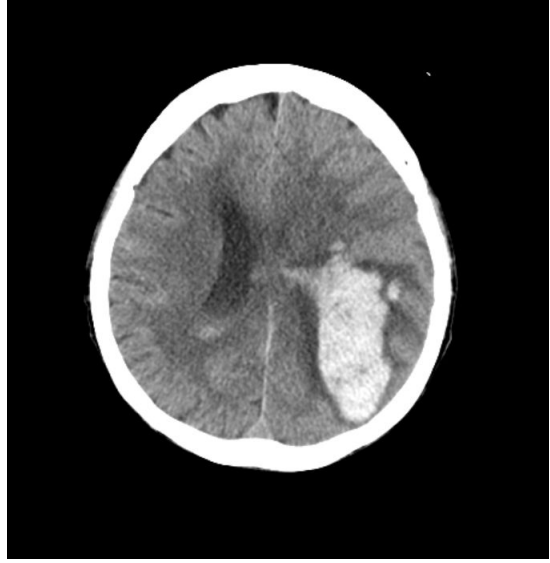
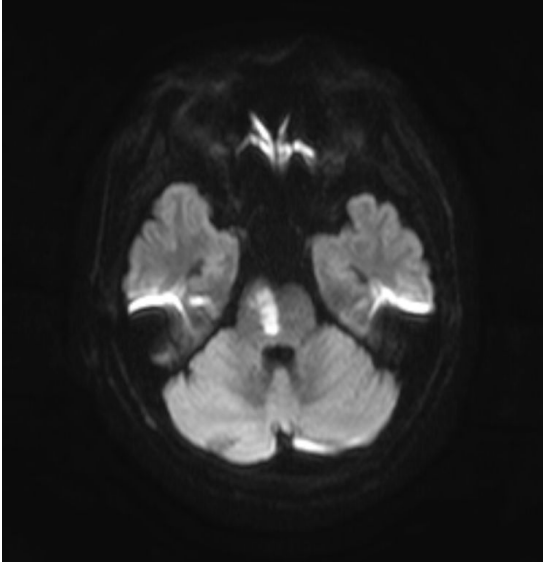
直腸膀胱窩	骨盤・腰椎周囲
上腹部	上腹部 (腎レベル)

問題 32 頭部・頸部疾患による画像の記述について誤っているものはどれか。

1. 画像 A はスライス厚 5 mm の連続する 3 スライスの DWI 画像である。外側線条体動脈領域の BAD (分枝粥腫型梗塞) が疑われる。
2. 画像 B は傍正中橋動脈領域の BAD (分枝粥腫型梗塞) が疑われる。
3. 画像 C は脳アミロイドアンギオパチーと診断された皮質下出血の頭部 CT 画像である。皮質下出血の鑑別には高血圧によるものや AVM があり、この疾患では被殻に微小出血がみられることが特徴である。
4. 画像 D は CDS (Crowned dens syndrome) を疑う。
5. 画像 E は Thumb print sign をみとめ、急性喉頭蓋炎を疑う。



A	A
A	



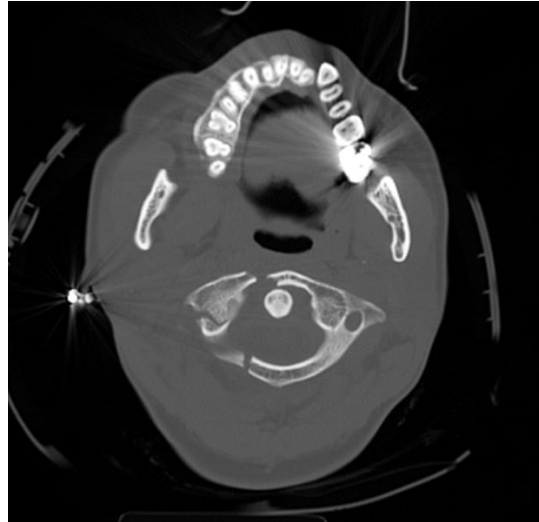
B	C
D	D
E	

問題 33 整形外傷による画像の記述について誤っているものはどれか。

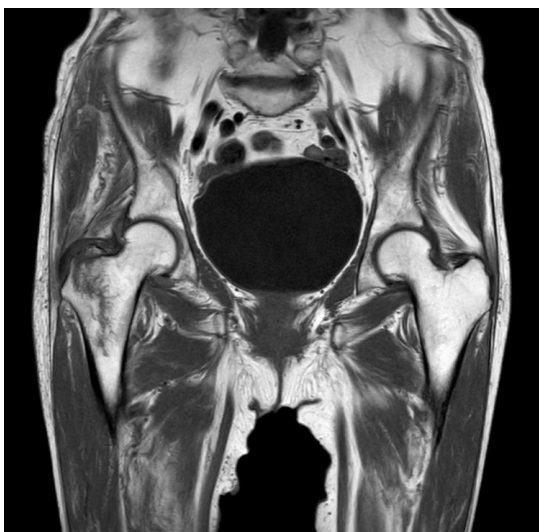
1. 画像 A は受傷機転として、高所からの墜落が考えられる。
2. 画像 B は非骨傷性脊髄損傷であり、最近では SCIWORET と呼ばれる。
3. 画像 C は骨折が椎体に及んでいるため Anderson type III である。
4. 画像 D はハングマン骨折で、頭側からの垂直圧迫力により発生するとされている。
5. 画像 E は X 線写真で骨折がはっきりせず、MRI によって骨折と診断された画像である。このような骨折を不顕性骨折 (occult fracture) という。



A	A	A
B	B	B

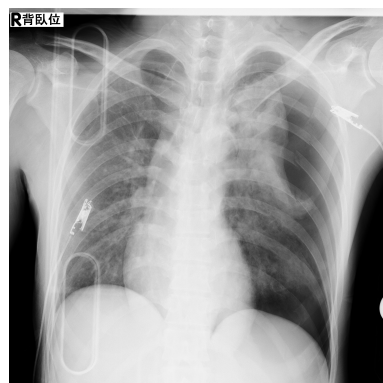
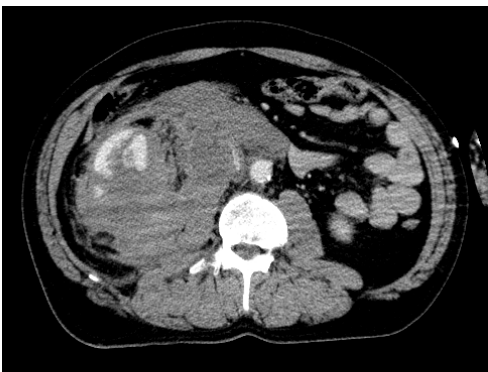
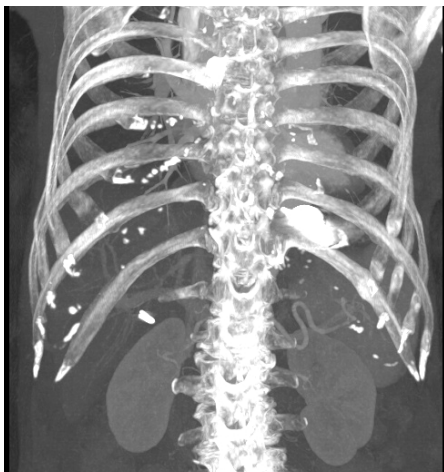


C	D
E	
E	E



問題 34 外傷による画像の記述について誤っているものはどれか。

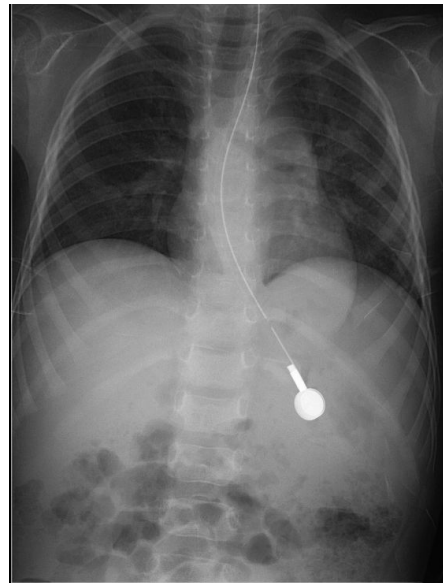
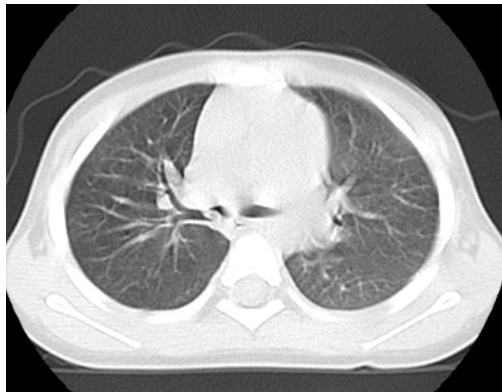
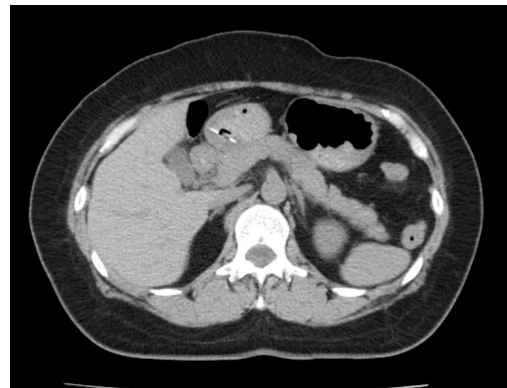
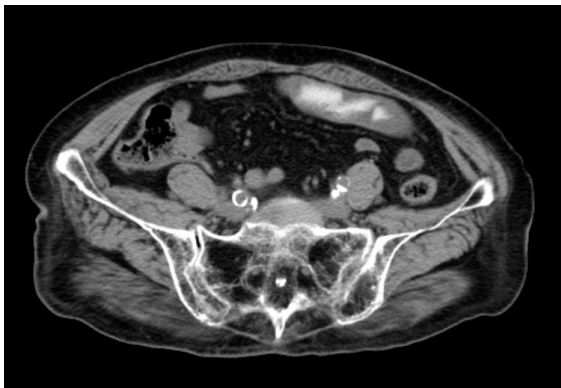
1. 画像 A は釘による刺創であるが、心嚢内に液体が貯留しており心タンポナーデである。
2. 画像 B は dependent viscera sign があり、横隔膜損傷である。
3. 画像 C は包丁による刺創であるが、心臓外傷危険域 (sauer's danger zone) 境界付近に刺入口があり心損傷の危険性が高い。
4. 画像 D は腎損傷分類 2008 (日本外傷学会) III-b で血腫は Gerota 筋膜内に留まっている。
5. 画像 E は頸静脈怒張や気管偏位などの身体所見やバイタルサインの確認が必要である。



A	B
C	C
D	E

問題 35 異物撮影による画像の記述について正しいものはどれか。

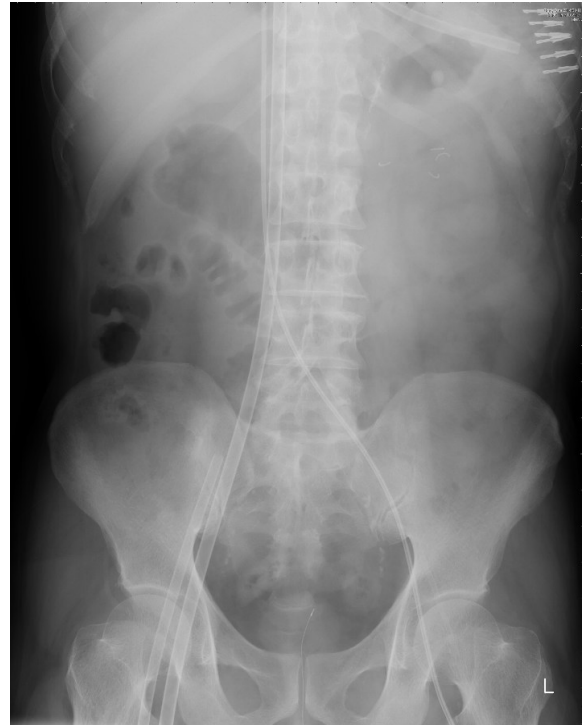
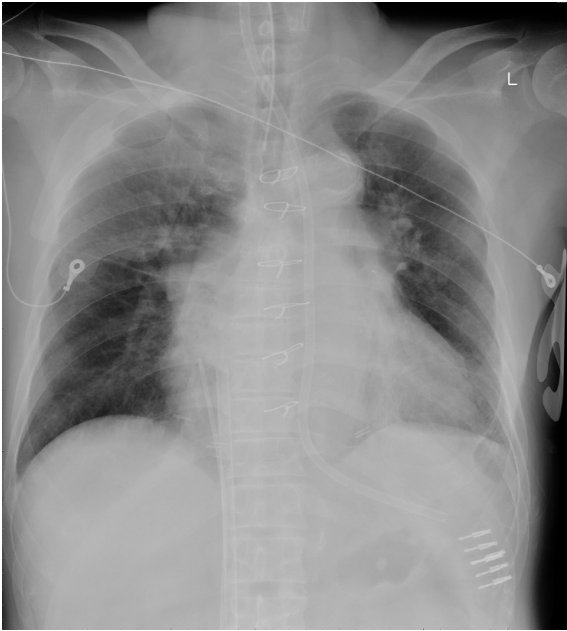
1. 画像 A は餅による食餌性イレウスの CT 画像である。食餌性イレウスでは小腸内にガスを含んだ糞便様物質(small bowel feces sign)がみとめられることがある。
2. 画像 B は PTP シート誤飲の CT 画像である。緊急性はあまりなく,PTP シートの材質としてポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなどがある。
3. 画像 C は有鉤義歯誤飲の CT 画像である。異常所見はない。
4. 画像 D はピーナッツ誤嚥の CT 画像である。右気管支に異物をみとめる。CT では存在・局在診断に加え Holzknacht 徴候をみている。
5. 画像 E はマグネットカテーテルによりボタン電池の回収を行った時の透視画像である。ボタン電池は鋭利ではなく緊急性はない。



A	B
C	C
D	E

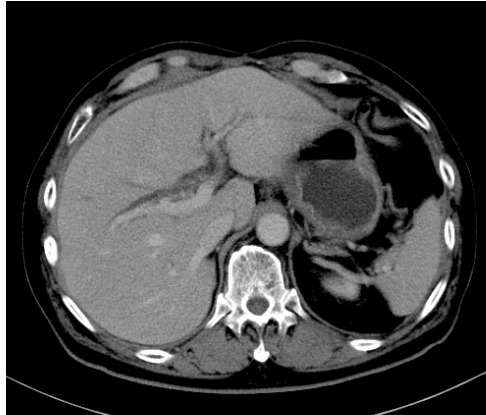
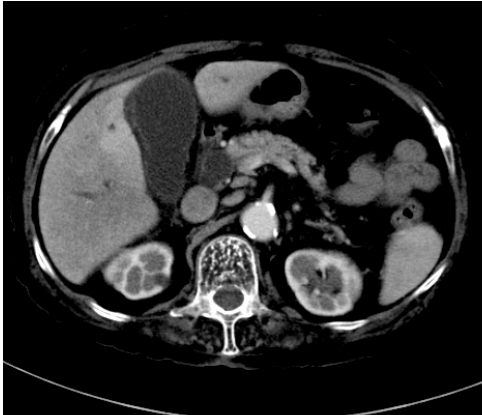
問題 36 ショック状態の患者の画像に関する記述について誤っているものはどれか。

1. 気管内挿管チューブ位置は正常である。
2. 胃管の位置は正常である。
3. IABP カテーテルが挿入されている。
4. 中心静脈ルートが左大腿静脈より挿入されている。
5. 電極パットが貼り付いている。



問題 37 急性胆嚢炎画像の記述について誤っているものはどれか。

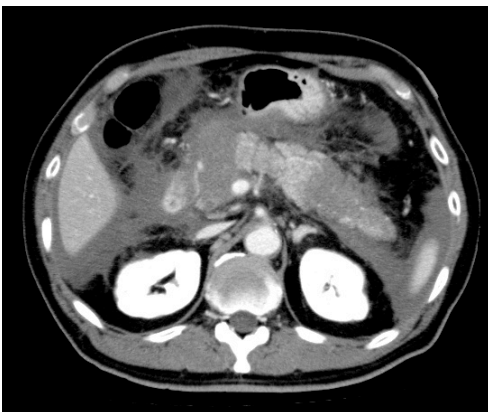
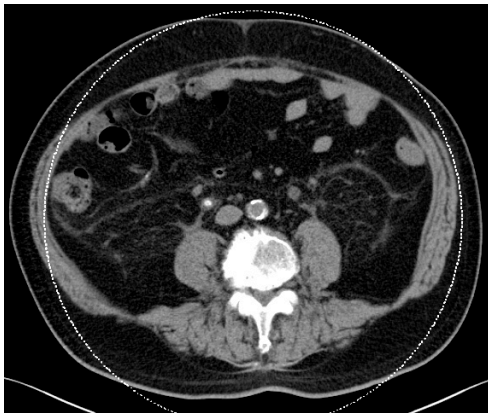
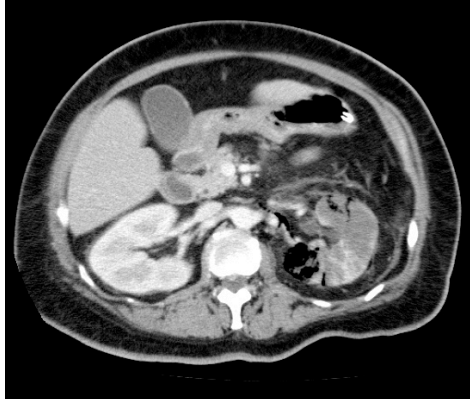
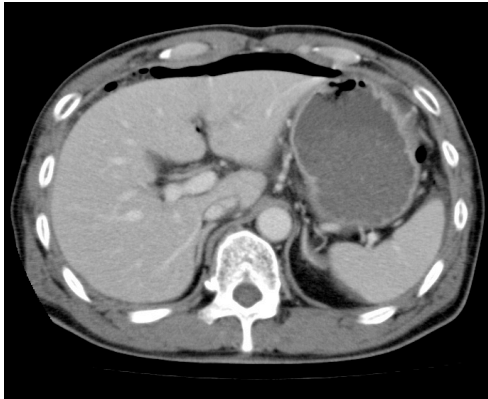
1. 画像 A では胆嚢周囲肝実質の早期濃染がみられる。
2. 画像 B では periportal collar sign がみられる。
3. 画像 C は胆嚢壁の造影効果の一部消失がみられる事から,重症胆嚢炎 (壊疽性胆嚢炎) を疑う。
4. 画像 D は胆嚢炎に対して胆嚢瘻孔造影を施行した。
5. 画像 E では,右横隔膜下にドレーンが留置されている。



A	B
C	D
E	

問題 38 腹部救急疾患画像の記述について正しいものはどれか。

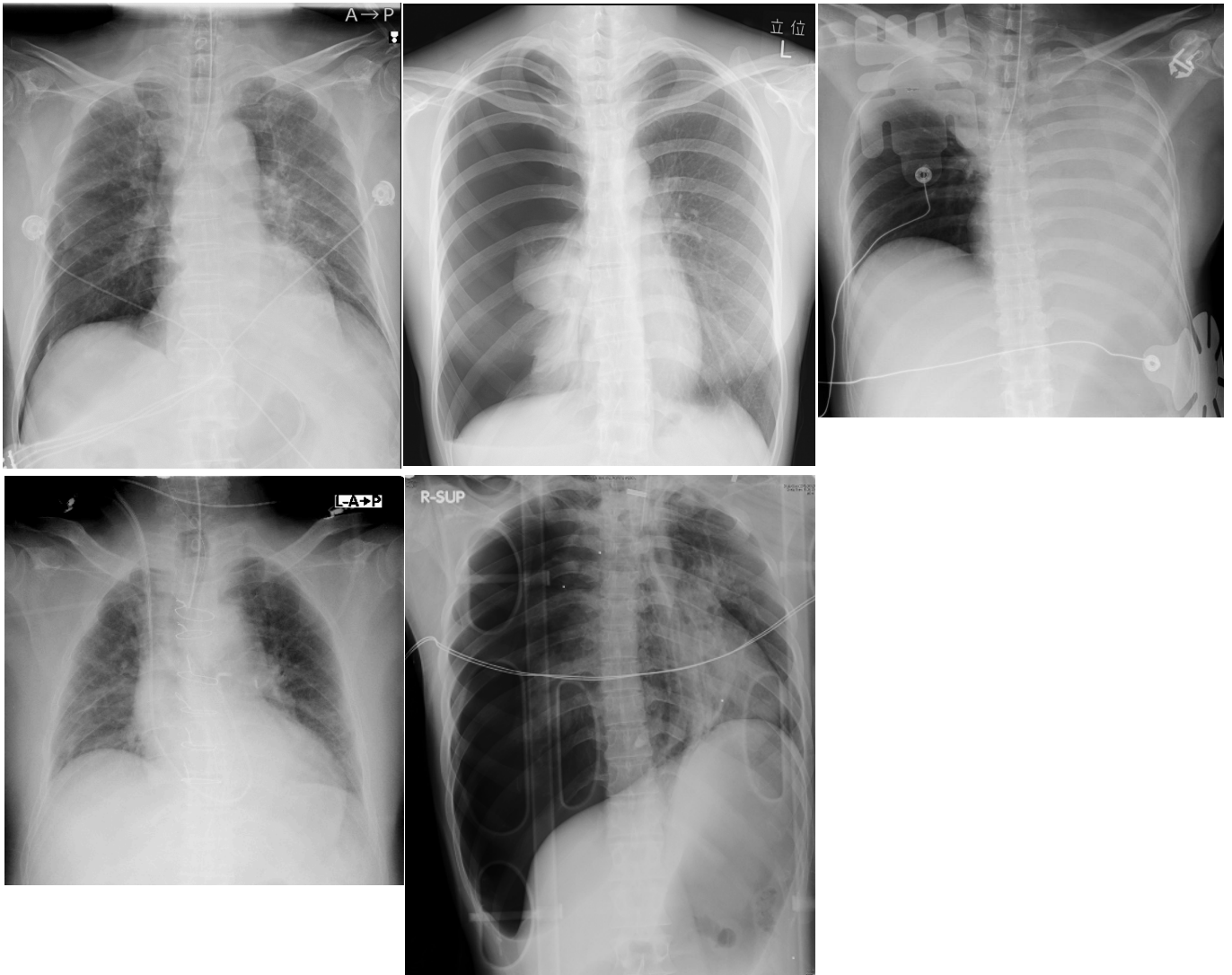
1. 画像 A は肝表面及び Morrison 窩に free air を認める。
2. 画像 B は腎梗塞が疑われる。
3. 画像 C では右尿管に soft tissue rim sign が認められる。
4. 画像 D は右大腿ヘルニアが疑われる。
5. 画像 E,F から急性膵炎の重症度判定基準で grade2 が推定される。



A	B
C	D
E	F

問題 39 胸部救急疾患画像の記述について正しいものはどれか。

1. 画像 A では deep sulcus sign が認められる。
2. 画像 B では左肺の気胸が疑われる。
3. 画像 C は左肺への片肺挿管による左肺の無気肺が発生している。
4. 画像 D では Swan-Ganz カテーテルが挿入されているが,主に肺静脈に留置される。
5. 画像 E の緊張性気胸が認められた場合,処置よりも速やかに CT 検査を施行する事が望ましい。



A	B	C
D	E	

問題 40 胸部救急疾患症例の記述について誤っているものはどれか。

症例) 90 歳代女性、娘さんと話している時に、突然意識を失い、いびき様の呼吸をし始めたため救急要請。救急隊接触時の血圧 80 / 60

来院時の患者情報

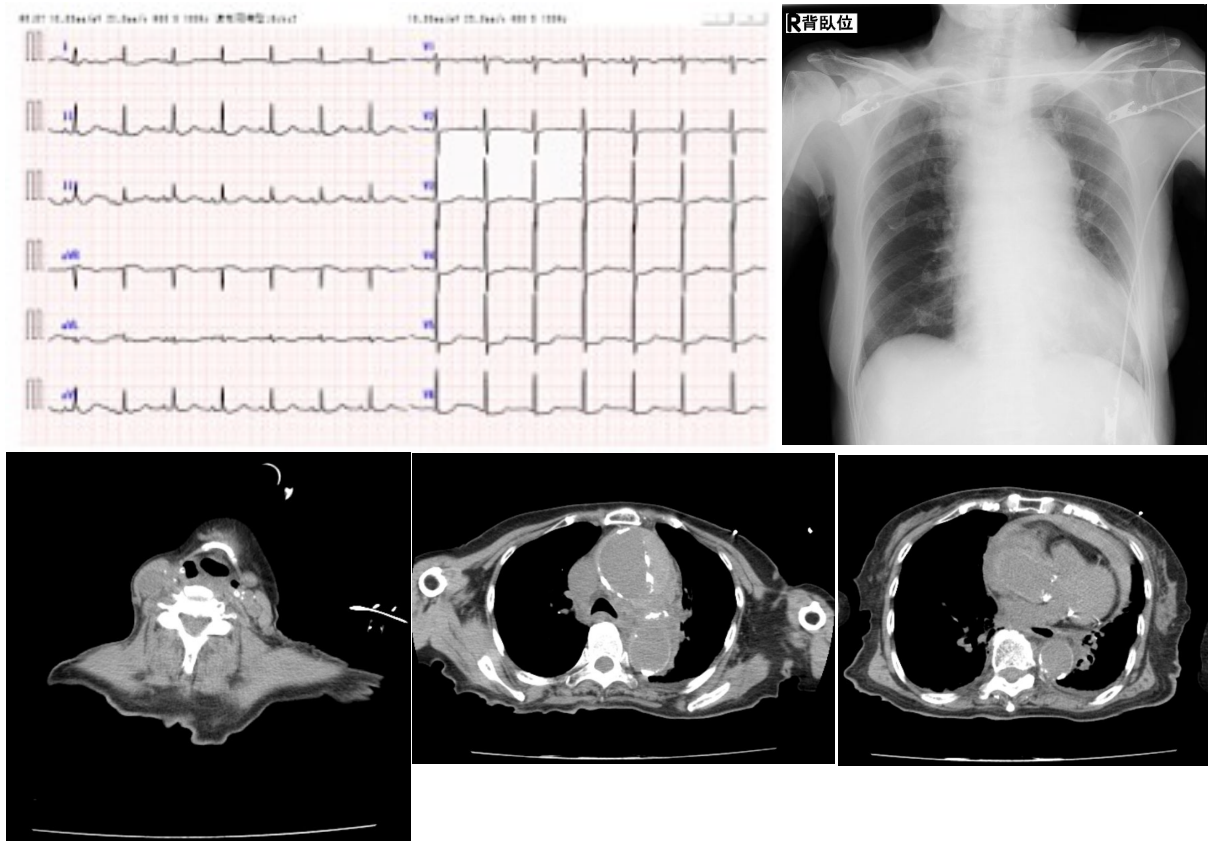
(バイタルサイン) HR80/min BP100/50mmHg RR24/min.

(凝固) Dダイマ 11.91 血中 FDP 27.30 INR 1.04

(血液ガス) BE -11.6

(その他の情報) トロポニン T 0.029 E3V3M6 胸部 X 線写真 : CTR62.1

1. 心電図(画像 A)で ST 低下がみられる。
2. 単純胸部 X 線(画像 B)で縦隔開大がみられるが,CTR は正常範囲である。
3. CT 画像(画像 C)で頸静脈が張っており,CT 画像より心タンポナーデによる閉塞性ショックが疑われる。
4. CT 画像(画像 D・E)より Hyperdense crescent sign があり偽腔閉鎖型、Stanford A 型解離であり,手術を考慮する。
5. 急性期では剥離内膜は薄く,拍動で揺れ動き,造影 CT で motion artifact により二重に見えることがある。



問題 41 小児虐待, 被虐待児症候群に関して誤っているものはどれか.

1. 被虐待児症候群は,身体的虐待,性的虐待,ネグレクト,心理的虐待に分類される.
2. 頭部外傷でよく見られる画像所見は,硬膜外血腫である.
3. 大脳鎌後半,両側性,新旧異時性の血腫は乳児ゆさぶり症候群との関連が強い.
4. 1歳未満の重症頭部外傷の95%は虐待によるものである.
5. 特異的な骨折部位として,肩甲骨・胸骨骨折・多発性肋骨骨折があげられる.

問題 42 「電子保存の三原則」について,“保存性の確保”で誤っているものはどれか.

1. 媒体・機器・ソフトウェアの整合性不備による復元不能の防止策
2. 情報の継続性の確保策.
3. 不適切な保管・取り扱いによる情報の減失,破壊の防止策.
4. 情報の確定手順と,作成責任者の識別情報の記録.
5. 記録媒体,設備の劣化による読み取り不能または不完全な読み取りの防止策.

問題 43 外傷性疾患において各損傷部位別に注意すべき点について誤っているものはどれか.

1. 媒体頭部外傷では頭蓋内圧亢進に伴い嘔吐が生じる可能性があるため,不用意な体位変換を行うべきではない.
2. 鼻出血では咽頭部から比較的大量に出血するため,気道閉塞に注意する.
3. 脊髄損傷でネックカラー固定は,患者の背面に対して障害を与える可能性があるため,できるだけ早期に脱着し,側臥位で搬送,撮影することが望ましい.
4. 肋骨骨折は呼吸によって苦痛を伴うことが多いので,体位の変動に注意する.
5. 不安定型の骨盤骨折患者の移動でのログロールは禁忌であり,フラットリフトを行う.

問題 44 診断参考レベル(diagnostic reference levels: DRLs)の基本的事項について誤っているものはどれか.

1. 実態調査に基づいた診断参考レベルである.
2. 対象には,放射線診断と診断核医学が含まれ,放射線治療は適用しない.
3. 基本的には,確定的影響がその対象となる.
4. 線量の最適値ではない.
5. 規制的な目的ではなく,線量限度または線量拘束値ではない.

問題 45 標準予防策の概要について誤っているものはどれか。

1. すべての患者の湿性生体物質は、感染の可能性がある。
血液、耳鼻分泌物、創からの浸出液、手術切除材料、血の混じっている。
可能性のある唾液を対象とする。
2. 患者を交差感染から守り、医療従事者を職務感染から守る。
3. 交差感染の率を低下すると同時に、すべての患者がその診断にかかわりなく一定の治療を受けることができる。
4. 未同定の病原体から、医療従事者を守ることができる。
5. 交差感染とは、患者以外の他者や医療器具または、接触感染によって感染発症することである。

問題 46 次の不整脈の処置において正しいものはどれか。

- | | | |
|------------|---|-----------------------|
| 1. 心静止 | — | 胸骨圧迫を開始し、早期の電氣的除細動を施行 |
| 2. 心室頻脈 | — | 電氣的除細動を施行 |
| 3. 心室細動 | — | 胸骨圧迫を開始し、早期の電氣的除細動を施行 |
| 4. 無脈性電気活動 | — | 電氣的除細動を施行 |
| 5. 期外収縮 | — | 胸骨圧迫を開始 |

問題 47 バイタルサインについて誤っているものはどれか。

1. バイタルサインとは患者の生命に関するもっとも基礎的な情報である。
2. バイタルサインは脈拍、呼吸、血圧、体温の4項目がある。
3. 脈拍の正常値は毎分50～60回で、50回以下を徐脈、100回以上を頻脈とよぶ。
4. 外呼吸とは肺の伸縮によって大気を体内へ導き酸素を取り入れ二酸化炭素を排出することである。
5. 特殊な呼吸として、チェーン・ストークス呼吸、過換気状態、起坐呼吸、下顎呼吸がある。

問題 48 次の記述について正しいものはどれか。

1. 移動型及び携帯型엑クス線装置にあつては,엑クス線管焦点及び患者から放射線診療従事者等までの距離を 1メートル以上にするべきである.
2. 移動型及び携帯型엑クス線装置にあつては,엑クス線管焦点から放射線診療従事者等までの距離を 2メートル以上にするべきである.
3. 移動型及び携帯型엑クス線装置にあつては,患者から放射線診療従事者等までの距離を 2メートル以上にするべきである.
4. 移動型及び携帯型엑クス線装置にあつては,엑クス線管焦点及び患者から放射線診療従事者等までの距離を 2メートル以上にするべきである.
5. 移動型及び携帯型엑クス線装置にあつては,엑クス線管焦点及び患者から放射線診療従事者等までの距離を 3メートル以上にするべきである.

問題 49 ショックの原因疾患で誤っているものはどれか。

1. 循環血液量減少性ショック — 出血
2. 心原性ショック — 心タンポナーデ
3. 心外梗塞・拘束性ショック — 緊張性気胸
4. 心外梗塞・拘束性ショック — 急性肺血栓塞栓症
5. 血液分布異常ショック — 敗血症

問題 50 患者搬入時の事前準備の記述について誤っているものはどれか。

1. 救急患者の搬入時には,搬入される患者の情報を事前に調べ今後の診療の展開に関する情報を収集する.
2. 標準予防策 (standard precaution) は,患者の目視できる汗,血液,体液,排泄物などを感染の可能性をもつものとして扱う.
3. 初期診療時には,個人防護具 (手袋,マスク,ガウン) の着用を励行する.
4. 個人防護具は,汚染した場合や異なる患者に接触する場合にはそのつど着替える必要がある.
5. CT撮影やMRI撮影,血管造影など撮影準備に時間の要する機材は遅滞なく診療が移行できるように事前に手配をする.